

---

# 愉快的な学校生活、その1

Lunaの光

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

愉快的な学校生活、その1

### 【Nコード】

N7613C

### 【作者名】

Lunaの光

### 【あらすじ】

普通で普通の中学生、普通で普通だったはずのりゅは普通ではないけどのピアノで何かを思い出す…？

## ピアノの音色

放課後。

音楽室の前を通ると、  
そっと響くピアノの音色。

何の曲だっけ……？

考える。

思い出すために。

『とても、大事な曲だった気がする。』

思い出そうとすると、頭が痛くなる。  
何か不愉快な思い出？  
よくわからない。

気になって音楽室をのぞく。  
ピアノで顔が見えないけれど、  
誰かは特定できる。

普通に聞いていれば  
普通にいい曲。  
だけれど何か、自分にとって不都合な曲。

誰…？

記憶を探す。  
砂を掘るように。  
でも、湿気を含まない砂は  
さらさらと穴を埋めていく。

「…お前はのぞきの趣味があったのか。」

思い出す、何かを。

ピアノの音色が止まる。

「別に。」

ただ、どこかで聞いたような気がして……。」

何だろう、遠い記憶の中に……。

そういえば、小さいころの記憶が無かった気がする……。

思い出したい、思い出せ……！

『一緒に歌おうよ……！』

僕と一緒に……！』

何て歌？

『愛の……、………！』

聞こえない、何の歌なの？

「ねえあなた……、それ、何て曲なの……？」

恐る恐る聞く。

「……それが、その……わからない。」

「どうして？なぜ分からないの？」

「昔から知っていた。

それに何故この曲をお前が知っている。」

「そんなもん知るか！この馬鹿男！  
何て、冗談だけれど。」

「そんなもん知らないわよ……。  
…曲、続けてよ。」

またピアノの音色が響く。  
とても、とてもきれいな、旋律。





…。

「……、」

）  
）  
）  
）

またピアノの音色が、音楽室を支配する。

綺麗、綺麗だけれど。

「……こんなに……れ……ない……？」

記憶に直接流れてくる、何だろっこれは…。

『約束だよ…、ずっと、一緒にいる…よ……!』

はっとしたころには、意識が途切れていた。  
黒い、闇の中におちていった…。

「おい!おいりゅ!」

誰かの声が聞こえる。

もう、どうでもいいわよ…、こんな世界…。

歪んだ記憶、消えない記憶

黒。

全部、黒。

こじはどじ？

『約束だよ…。』

誰？

誰があたしと、何を約束してるの？

『僕と、一緒に…』

一緒に？わからない…、

『一緒に…、ずっと…。。』

闇に、闇に消えないで。

消えないで…。

「……………おい！」

現実に呼び戻したのは、けんとの声。

「…！あたしなんで倒れてんの…？」

「それはこっちが聞きたい。  
勝手に倒れるな…。」

けんとは相当焦っていたのか、少し汗をかいているように。  
心配してくれたのが、ちょっとうれしい。

「…倒れてる間…。  
闇の中で、誰かが言った…『約束、僕と一緒に…』。  
それ以外は聞こえなかった。」

けんとは、はっとする。何かに気づいたような。

「聞こえない？ううん、聞きたくなかったのかもかもしれない。過去の自分が、その記憶を嫌がっていた…。」

黙ってけんとは話を聞いている。  
うつぶいで、表情がよく見えない。

「…あんだ、何か知ってる？  
知ってるんでしょ…？」

けんとは、時の歪みを触れるから。  
普通の人間、だけど歪んだものに触れるから。  
歪んだものを、普通のものに見せられるから。

「あたしの…、歪んだ記憶を触ったの？」

りゆの声が、けんとの頭の中で響く。

歪んだ記憶……、そうだ。

触った、のか……！？

俺は……？

消えることの無い……、

記憶を埋めて……。

「……………。」

けんとは、黙るしかなかった。  
自分が、自分が記憶に触って、少し記憶を変えたから。

それを今、思い出してしまったから。



## わからぬ人の歪んだ声

「……………言っても、お前に得はないぞ？損するだけだ。  
…それでもいいのか？」

けんとか、いつもより少し低い声で言った気がした。  
もっとも、気がしたただけだけれど。

「あんと一緒にいて、得なんかないじゃない。」

少し怒ったような口調。  
ああ、そうか。  
俺といても得なんかないか。  
だったら、今更だろう。

「俺が知っているのはその記憶の断片だ。  
なぜそれが歪んだ記憶なのか、というのはわからない。ただ…、」

「ただ？」

何なのよ、と返す。

少し戸惑いながらも、けんとは答える。

「お前がそいつと話した場所が、

時の歪みの中であることは確かだ。

そして、そいつが歪んだ人間であることも…。

でも、なぜ歪んだ記憶になってしまったのかは…。」

「歪んだ空間だから…、じゃないの?」

「どんな場所であれ、記憶が正しく蓄積されていれば歪んだ記憶にはならない。」

沈黙。

ただひたすら考えるだけの沈黙。

『なんでけんとはあの歌をピアノで?』

『なんであたしは時の歪みに?』

『何故俺はこの曲を弾いていた？』  
『何故俺はりゆの歪んだ記憶に触った？』

そうすればそうするほど、闇の中に消えていくように…。

「…もう夕方。」

集中しているときは早いわね、時が過ぎるのは。」

「そうだな…。それにもう秋だから、少し肌寒い。  
…今日は帰るか？」

そうしましゅ、そう言い  
音楽室を出ようとしたら。



「ややこしいことになりそうだ。」

…時の歪みに来い、話はそれからだ。」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7613c/>

---

愉快的な学校生活、その1

2011年1月16日03時45分発行